

「道の駅」の地域への波及効果向上に向けた調査・分析

[協力機関] 北海道経済部観光局

背景と目的

- ・道内の「道の駅」は、2021年末現在で128か所あり、今後も増え続けることが想定されます。また近年、「道の駅」に求められる機能は多様化していますが、建物の計画や運営方法に関する知見は不足しています。
- ・本研究では、「道の駅」の地域への波及効果を高める要因を明らかにし、市町村が「道の駅」を新築・改修・運用改善時に活用できる資料集を作成することを目的とします（図1）。

成果

A. 「道の駅」に関する基礎調査・分類

- ・「道の駅」管理者を対象とした建物に対するアンケート調査から、建物規模や室内温湿度に対する不満が多いことが確認されました（図2）。具体的には、「使いづらい形」や「室内温湿度が制御しづらい」といった課題が抽出されました。
- ・オープンした年度より来場者数が増加した「道の駅」を調査し、地元特産品や他の「道の駅」にはない商品の販売といった、来場者数増の可能性のある特性・特徴を整理しました（図3）。

B. 「道の駅」の地域への波及効果に関する調査・分析

- ・地域への波及効果が高いと想定される「道の駅」をアンケート調査から抽出し、インタビューを実施しました。
- ・「道の駅」での販売を目的に新たな商品開発を地元企業が実施している事例や、地元特産品を他自治体と交互に販売するといった市町村間連携の事例など、地域内外へと波及効果をもたらしている事例がありました（図4）。

C. 「道の駅」整備を対象としたケーススタディ

- ・実際の「道の駅」の基本構想・基本計画の策定に参画し、立地や機能などの議論や、計画策定にかかる流れを把握しました。
- ・本研究で得られた結果を基に、道内「道の駅」の特徴等をまとめた資料集を作成しました。

成果の活用

本研究の成果の一部は、自治体の「道の駅」基本構想に参考資料として活用されました。また、作成した資料集は、自治体が「道の駅」を新築・改修および運用改善を行う際に活用されます。

1. 「道の駅」に関する基礎調査・分類

- ・自治体・「道の駅」の管理者へのアンケート調査

2. 「道の駅」の地域への波及効果に関する調査・分析

- ・事例を抽出し、自治体・管理者へのインタビュー調査

3. 「道の駅」整備を対象としたケーススタディ

- ・「道の駅」の基本構想・基本計画への参画
- ・自治体が「道の駅」を新築・改修および運用改善を行う際に活用できるノウハウをまとめた資料集の作成

図1 研究フロー

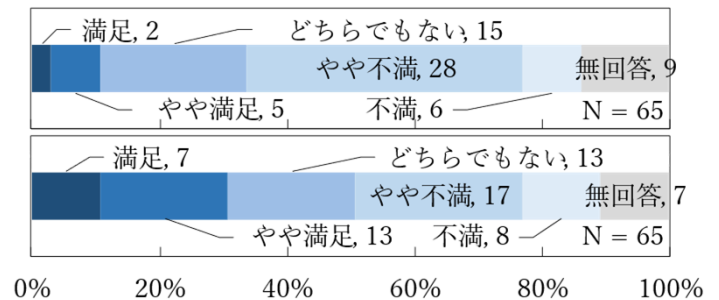


図2 建物に対する満足度 (上：建物規模、下：室内温湿度)

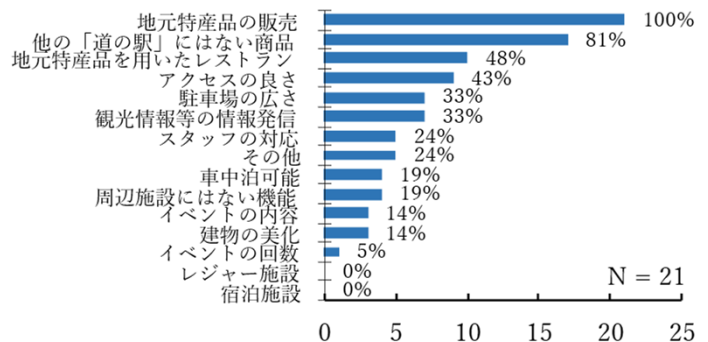


図3 来場者数が増加した「道の駅」の特性・特徴

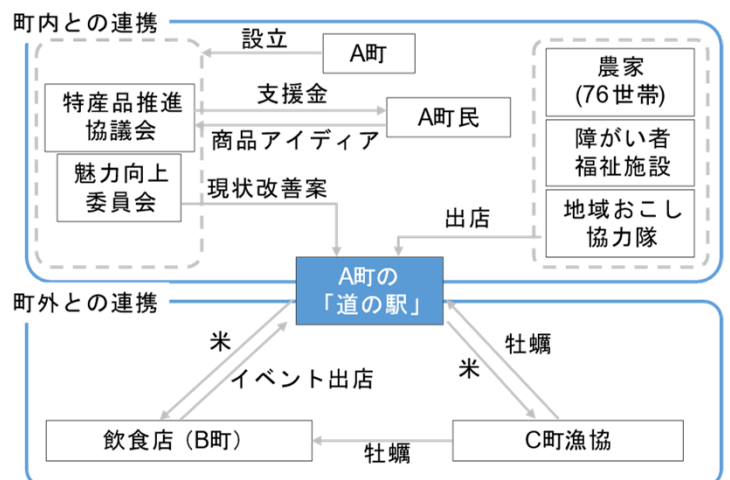


図4 「道の駅」の地域内外への波及効果の例